

たすきをつないだ県民駅伝

9月4日（日）、県内40市町村のランナーが郷土の榮譽をかけ、健脚を競い合う「第24回青森県民駅伝競走大会」が青森市で開催されました。

当町からは、安田照輝さん（1区）、工藤心平さん（2区）、尾崎勝士さん（3区）、市川友昭さん（4区）、熊谷悠さん（5区）、太田悟さん（6区）、佐藤亜海さん（7区）、相馬健佑さん（8区）の8人が鶴田町の代表選手として出場。日頃鍛え上げた健脚で鶴田町のたすきをつなぎ、8区間33.8kmのコースを走り抜けました。

意地と粘りを見せた選手一人ひとりの走りの結果、当町は2時間12分33秒のタイム、町の部で20位の成績を収めました。



△たすきをつなぐ鶴田町のランナー



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場総務課まちづくり班（内線264）までお知らせください。

消防団が鶴田高校で出前講座

消防団に興味を持ってもらい、団員の加入促進につなげようと、消防団出前講座が県立鶴田高等学校で9月8日（木）に開かれ、参加した生徒が消防団の活動に関心を深めていました。

出前講座では、鶴田町消防団（下山正彦団長）の団員が「皆さんには自分の住む地域の消防団に入って活躍してもらおうのが我々の夢です」「危険が伴う仕事だが、住民から感謝されるのが何よりの喜び」などと消防団の魅力を伝えていました。

また、校舎裏では生徒が防火服を着て放水を体験。体験した1年生の藤田進之助さんは「消防団の活動には興味があったので、今回は貴重な経験になりました」と話していました。



△全校生徒が見守る中、防火服を着た生徒が放水を体験

津軽塗の研ぎ出しに生徒が挑戦

9月10日（土）、鶴田中学校美術部の生徒が津軽塗の製作を体験し、伝統技法に親しみました。

体験教室は、伝統的工芸品産業振興協会が主催。今年度は同校のほか、梅沢小学校で開催され、当町の坂本彰彦さん（西瀬良沢）が講師を務めました。この日、生徒たちは、事前に色を重ねて作った木地に紙やすりをかけて独特の模様を作る研ぎ出しに挑戦。坂本さんから「きれいに模様が出るように削りすぎないで」などと教わりながら、津軽塗のコースターとペン立てを製作しました。

1年生の一戸亜美さんは「津軽塗は何度か製作した経験があるけど、今回は模様がしっかり出るように気をつけました」と話していました。



△生徒につや出しのニスの塗り方を教える坂本さん（左）



△熱戦が繰り広げられた吸盤綱引きの決勝戦

楽しくハゲしい「中秋の有多毛」

「中秋の名月」にあたる9月15日（木）、ツル多はげます会（須郷貞次郎会長）の秋の例会「中秋の有多毛」が山田温泉で開かれました。

当日は町内外から36人が参加。会場では、月に見立てた頭が誰の頭かを当てる「名月当てクイズ」や、頭に吸盤を付けて引っ張り合う「吸盤綱引き」など恒例の催しが行われ、綱引きでは、当町の八木橋英貴さんが優勝しました。

また、イベントでは、はげ頭を題材に作られた川柳を集めた本『ハゲ川柳』の出版（河出書房新社出版）が紹介されたほか、今年11月19日（土）に第2回吸盤綱引き全国大会を開催する予定であることが報告されました。

長寿を祝い町発展への貢献に感謝

町のお年寄りの長寿を祝い、町発展に寄与されたことを感謝する敬老会が9月16日（金）、国際交流会館で開催され、約300人が参加しました。

開会にあたり、相川町長が「町では、皆さまが元気で活躍できる社会づくりを目指している。今後も豊富な経験と知恵をまちづくりに活かしてほしい」とあいさつ。続いて、出席した88歳長寿者32人に頭彰状が贈られ、100歳を迎えた3人に内閣総理大臣祝い状が、88歳到達者夫婦に県知事頭彰状がそれぞれ伝達されました。

町の最高年齢長寿者（平成28年9月1日現在）は、女性が104歳の三戸あつさん（松倉）、男性では101歳の伊藤惣一郎さん（掛元）です。



△内閣総理大臣お祝い状を伝達される出町ユリさん（右）